

香川県支部サヌキ松谷分会結成

全国の仲間の支えで 安心して仕事に取り組める



サヌキ松谷分会の皆さん

私たちサヌキ松谷分会は、2019年3月に全従業員11名中5名で全港湾四国地方本香川県支部に加入しました。

私たちの職場は、本社を兵庫県伊丹市に置く松谷化学工業(株)の子会社として、2012年に坂出市番の州でサヌキ松谷(株)工場が設立され、希少糖含有シロップと呼ばれるシロップを製造する食品製造会社であり、労働条件については本社の人事部が作成し勤怠管理も人事部が担当しています。

また、設立当初からの担当が人事異動によって変わり、新任としては以前に本社の労働組合で委員長をしていた方が担当になりました。労働組合の委員長も経験した方が担当者になるのだから私たちの声をしっかりと聞いてくれ、良好な個別的労使関係を築いていけるのだろうと思っていましたが、担当となった途端に給与規定の見直しを通告し、給与の4万円減額といった新給与規定を提示してきました。私たちは提示された内容を拒み意見を言うと、「交代勤務から定時勤務に変えるぞ!」や、「法律云々の話をするなら会社もそれなりの対応を取っていくぞ!」と脅しをかけてきました。元委員長が自身の成績作りのために従業員を脅し、屈服させようとしてくるので、私は全従業員を集め労働組合を結成し会社とたたかわないかと提案しました。すると4名が賛同をしてくれ、労働組合の結成を決意しました。

労働組合の結成にあたり、会社とトラブルがあれば、全港湾香川県支部の橋崎委員長に相談してみるといいと、知人から聞いていたので5人で相談に行きました。橋崎委員長は私たちの話を親身になって聞いて頂き、橋崎委員長の熱い言葉に感銘を受け、私たちは5名は全港湾香川県支部への加入を決めました。

また、加入後には迅速に香川県支部が加入通知書と団体交渉開催の要求書をサヌキ松谷(株)へ提出しました。団体交渉後の回答では新給与規定の見直しは実施しないとの返答があり、私たちが意見を言っても一切聞き入れてくれなかった

が、香川県支部が動くことによりこんなにも会社の態度が変わるのかと、全港湾の看板の大きさ・強さを実感しました。

しかし、給与規定の見直しはなくなりましたが、運用されている給与規定では34歳で基本給の昇給がなくなるようになっており、昇給の上限である55歳まで昇給ができるような改善と、入社時の基本給の設定が正当な理由なく低く設定されている者、仕事内容が一般社員の範囲を超え管理職並みの対応を取らされている2名の待遇改善を会社に申し入れました。



橋崎地本委員長を囲んで

会社とは団体交渉や文章でのやり取りの中で、何度も交渉を続けてきましたが、納得のいく説明をせず拒否してきました。このような状況を払拭させるために、香川県支部3役と私たち代表者2名で本社に行き、直接交渉担当者へ要求書を

提出し団体交渉の開催を申し入れました。

要求内容の趣旨説明では、これ以上誠意がない対応や回答を繰り返すのであれば労働組合としての手順を踏んだうえで、全国の仲間たちの力も借り、本社前での行動も辞さないことになってしまうことを会社に伝えました。

すると、会社の態度は一変し要求項目については誤りを認め、すべて受け入れるとの満額回答を勝ち取ることが出来ました。

私たち5名の要望が達成されたことにより、組合員からは安心して仕事に取り組め、安定した生活の確保が出来たとの声がでました。

まだ加入して間もない私たちですが、親身になって行動して頂いた香川県支部の皆様や全国の仲間たちの支えがあり、今回の様な結果が出たのだと私たち5名は思っています。ご支援、ありがとうございました。

これからも様々な活動に取り組み、全港湾香川県支部にはサヌキ松谷有りといわれるような組織にしていきたいと考えていますので、ご指導鞭撻のほどを、よろしく願い申し上げます。

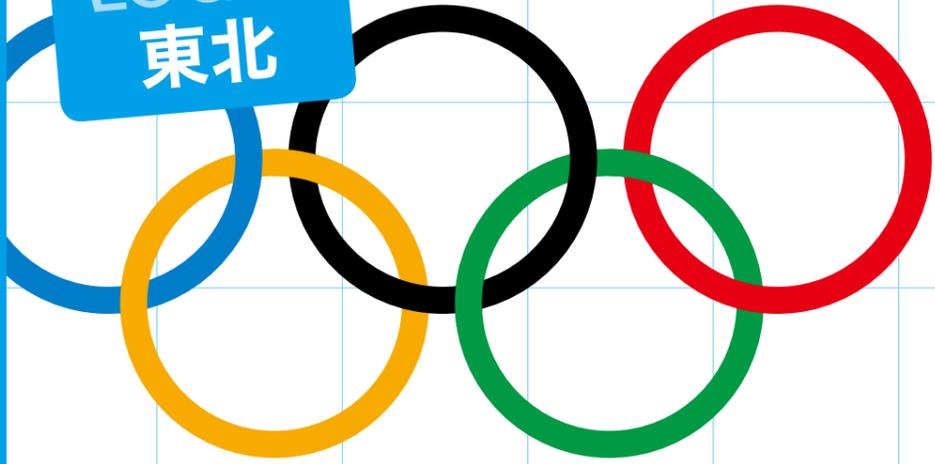
全日本港湾労働組合四国地方香川県支部
サヌキ松谷分会 園原 悠平



希少糖含有シロップ
レアシュガースウィート



LOCAL
東北



東北地方青年婦人部と日本海地方青年部で現地視察



双葉町消防署内



2011年3月11日14時49分で止まったままの時計

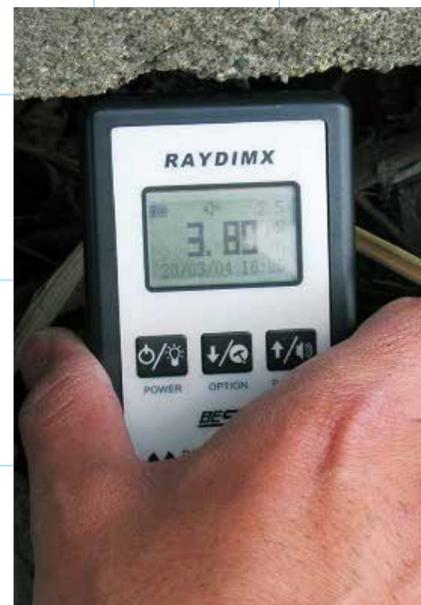
2020東京五輪と被災地の現状



帰還困難区域である福島県双葉町が2020年3月4日午前0時に双葉駅前広場周辺の一部を解除しました。2011年3月11日の東日本大震災から9年11カ月が経ち、今年で10年を迎えようとしていますが、開放されたゲートの先には、現在でも震災時に倒壊した家屋がそのまま立ち並び、また至る所で線量が高い場所がありました。原発の廃炉問題、廃炉作業や補償問題がまだまだ山積しているのに、国は今後も大熊町、富岡町の一部区域を解除していく方針を示しています。今回は、東京五輪の聖火リレーで被災地をランナーが走る事をうけて、約10年間入れなかった双葉地区を視察してきましたので報告させていただきました。

東北地方青年婦人部書記長
武田陽介

福島県四か所で、関西生コン支部への不当弾圧にたいする抗議集会



帰宅困難地域から解除された双葉町で測定したガイガーカウンター数値



松本顧問、東北地本新妻委員長、日本海地本鈴木委員長、東北地本矢代書記長、そして東北地方・日本海地方青年部の皆さん



全日建連帯労組、関西生コン支部への不当弾圧にたいする抗議集会が、福島県平和フォーラムの主催で、会津若松市、福島市、郡山市、いわき市の県内4か所で開催された。2月27日のいわき集会にあわせて、小名浜支部では250名で報告集会を開催した。全日建の小谷野書記長から不当弾圧の実態が報告されたが、あまりにもひどい弾圧に驚きの声が上がった。そして、このような弾圧を許せば労働運動全体への攻撃につながることであり、関生弾圧反対の取り組みを進めることを確認した。